

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400417
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ松柏
所在地	八幡浜市松柏甲 7 2 8 - 1
自己評価作成日	平成22年11月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年12月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事やホーム飾りで季節を感じていただきながら、皆が笑って楽しく過ごせるよう心掛けています。  
午前中はレクリエーションの時間をもち、入居者間・スタッフとのコミュニケーションをとるようにしています。  
また、ホーム外とのつながりも大切に支援を心掛けています。  
母体が病院ということもあり、医療面では安心して過ごしてもらっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所主催の「夕涼み会」の案内を地域の回覧版でまわしていただいたり、公民館や店舗をお願いして、案内のポスターを貼っていただく等、協力を得ながら夕涼み会に多くの地域の方が来てもらえるように取り組まれた。又、「お菓子まき」等、子ども達の喜ぶような企画もして工夫された。地域の公民館で振る舞われる「七草粥」の日や「公民館まつり」のバザー等にも利用者も出かけておられる。事業所の建物の前にある中学校から「総合学習」で中学生の訪問があり、日々でも散歩の途中に声をかけてくれる。  
以前から行っている図書館に本を借りに行かれたり、行きつけの美容院の利用が続けられるように支援されている。ご家族と旅行に行く予定の利用者もおられた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. <b>利用者の2/3くらい</b>				2. <b>家族の2/3くらい</b>	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b>		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. <b>たまに</b>	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている	
		2. <b>利用者の2/3くらい</b>				2. <b>少しずつ増えている</b>	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. <b>利用者の2/3くらい</b>				2. <b>職員の2/3くらい</b>	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. <b>利用者の2/3くらい</b>	
		3. <b>利用者の1/3くらい</b>				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. <b>利用者の2/3くらい</b>				2. <b>家族等の2/3くらい</b>	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. <b>利用者の2/3くらい</b>					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ松柏

(ユニット名) きんかん

記入者(管理者)

氏名 山崎 奈美

評価完了日

平成22年11月16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 目に付くところに理念を書いて日々実践できるように努めている。「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」という理念はスタッフがそれぞれ心に留めており実践できていると思われる	
			(外部評価) 「地域の中でその人らしく暮らしながら人間の尊厳を大切に生きて行く」「家庭的な雰囲気の中で、ゆっくり 楽しく いつも一緒にをモットーとして自立支援を行う」と事業所の理念を作成しておられる。居間には「ゆっくり、楽しく、いつも一緒に」と事業所のモットーを掲示しておられ、職員は、利用者と一緒に過ごす時間を大切にされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 夕涼み会に来てもらったり、中学校、地区の公民館の行事に参加している。地域の防災訓練に参加したり、地域の商店や美容室を利用するなど交流を図っている。	
			(外部評価) 事業所主催の「夕涼み会」の案内を地域の回覧版でまわしていただいたり、公民館や店舗をお願いして、案内のポスターを貼っていただく等、協力を得ながら夕涼み会に多くの地域の方が来てもらえるように取り組まれた。又、「お菓子まき」等、子ども達の喜ぶような企画もして工夫された。地域の公民館で振る舞われる「七草粥」の日や「公民館まつり」のバザー等にも利用者と出かけておられる。事業所の建物前にある中学校から「総合学習」で中学生の訪問があり、日々でも散歩の途中で声をかけてくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験や見学の受入れ、夕涼みの開催などを通して認知症の人の理解、支援していただけるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>会議は年に6回、そのうち行事見学を2回行っている。会議での意見はスタッフ会で話し合い、サービス向上に向け参考にさせてもらっている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>「ちょっと寄って話さん会」とネーミングされた運営推進会議を、事業所は「地域との情報交換の場」と捉え、公民館長、自治会長、婦人会の方や、近隣のグループホームの方達に出席していただいている。地域のことや事業所の様子等を報告し合って意見交換されており「外部評価について」「利用者の一日の生活の様子」等、毎回テーマを決めてすすめておられる。ご家族は、1年を通して2~3名の方を決め、参加していただくようにされている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主に施設長が報告・連絡・相談を行っている。市内のGH連絡会の参加や市主催の研修への参加も積極的に行っている。 市からさわやか相談員の来所が月1回あり、気付いたことなど意見を頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市主催の研修会に参加されている。事業所の「夕涼み会」を見学された介護相談員の方からは「地域の方と利用者が交流出来る場面があればいいですね」とアドバイスをいただき、次回から採り入れることを検討されていた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束しないことが原則とスタッフ全員が認識しており、勉強会にも参加し、正しく理解し実践しているつもりである。玄関の施錠や4本柵の使用、言葉の拘束など特に気をつけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>身体拘束について、職員は、法人や外部の研修で勉強をされている。2階の階段には、車椅子を利用している方等の危険回避のため、取り外しできる柵を付けている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内附帯施設で勉強会を開催し、虐待について学ぶ機会がある 虐待にならないよう一人ひとりが心がけている	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会での学習はしているが制度の利用が必要な入居者がいないため活用はしていない。今後、必要な入居者がいれば皆で学んでいきたいと考えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は重要事項説明書に添って説明を丁寧に時間をかけて行い、疑問、質問にもしっかり対応するようにしている。改定の際にも文章を出す等、きちんと説明するようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議での意見は運営に反映させている。例えば入居者の日々の様子をもっと知りたいという事から月1回、入居者の様子の報告書を送付するようになった。その他、面会時の意見や要望等は申し送りやスタッフ会で対応するようにしている。	
			(外部評価) 4月から、毎月、職員が交替で、利用者一人ひとりの健康や生活の様子等「ありのままの様子」を書いた便りをご家族に送付されている。ご家族の来訪時には、職員が、日頃の利用者の様子を伝えておられ、「爪を切ってほしい」「季節にあった服装を着せてほしい」等、ご家族からの意見や要望が聞かれた時には、職員で話し合い対応されている。 ご家族からの意見は現在、少ないようである。ご家族の声は事業所のケアの質の向上への取り組みのきっかけにもなることを踏まえて、ご家族が意見を出しやすいような機会やきっかけ作りを工夫していかれてほしい。例えば、運営推進会議時、話し合われたことや事業所が特に力を入れて取り組んでいること、職員の紹介やケアの事例を伝えたり、又、事業所の食事についての意見を聞く機会等も作ってはどうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者へは、法人内の管理者が集まって会議を行い意見はまとめて伝わるようになっている。 管理者へは、ホーム内でのスタッフ会で意見交換をしている。内容によって反映出来る事と出来ない事がある。	
			(外部評価) 「食事を終えた職員が、食事介助をする職員と交替する」等、日々の業務やケアについて職員で話し合いながら決めるようにされている。避難訓練では、職員が、研修で学んだ応急処置や、被害に遭った利用者の運搬法等について、実技講習を行い、全職員で共有された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 法人内に人事考課制度、登用制度がある。 年に1回は、異動希望調査が行われている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修規定があり希望する研修には受講料や交通費等が支給されている。 ホーム内では、毎月2名ずつは何らかの研修を業務中に受けられるように勤務を組み受講している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会主催の相互研修に参加したり、行事や運営推進会議などを通して他のグループホームとの情報交換をしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始前には、管理者が面会し事前に入居への不安等を聞いている。事前に会うことで入居時の不安を軽減できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用前の面会時であったり、契約の時であったりするが、家族の思いに耳を傾けているつもりである。家族の不安や相談などはスタッフ全員が共有できるように記録に残したり申し送りしたりしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>新規入居者の管理を法人の病院内でしており、必要な支援を見極めた上で、グループホームでの支援が必要とする方が入居してきている。ホームでも事前に様子や状態を見て、本人・家族の話を聞いた上で受入れをするようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>米とぎや食器洗い、洗濯物を干したりたたんだりできることは入居者も一緒に行っている。作業だけでなくレクリエーションにおいてもスタッフが適宜仲介役となって入居者同士のコミュニケーションもはかるようにしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月、1ヶ月間の様子を書面で家族に報告している。変わったことがあれば電話連絡をするほか、入居者の状況に応じて会いにきていただく、支援について相談する等、家族との関係も大切にしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外出時家の近くに寄ったり、電話をかける介助をしたり、昔のことを話題にして会話したりしているが、重度化や認知症の進行によって機会が減ってきているように感じられる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前から行っている図書館に本を借りに行かれたり、行きつけの美容院の利用が続けられるように支援されている。ご家族と旅行に行く予定の利用者もおられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 午前中のレクリエーションや食事・おやつの時間などスタッフも入りコミュニケーションを深めている。トラブルがおきそうな時にはスタッフが間に入るようにしたり、また気のあう利用者同士一緒に過ごして頂くなど心がけている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後は関わりがなくなることがほとんどである。相談があれば応じていきたい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 話を聞いたり、個々の様子を観察したり、態度や表情などから思いを汲み取るように努力している。カンファレンスでは本人本位に考え、一人ひとりが希望する生活ができるよう検討している。 (外部評価) 日々の記録には、「本人の訴え」「状態」「職員の対応」「気づき」等を記録するようになっており、職員は、利用者の生活歴等を知った上で話題作りに努め、利用者個々の思いや意向を引き出せるよう取り組まれている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にはアセスメントシートを活用し、本人・家族・ケアマネなどから情報収集している。また日々の会話の中から情報を収集していくこともある。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) スタッフ全員が日々の様子・変化等を把握するように心がけており、よりよいケアができるよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 事前に本人・家族の意見を聞いた上でカンファレンスを行っている。3ヶ月に1回ケアプランを見直しており、その時必要な支援ができるよう心掛けている。楽しみ・役割といった前向きな計画の一つは入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画を作成する前に利用者やご家族の意見を聞き取り、職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。食事制限等のある方は、栄養士や医師のアドバイスを採り入れておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の行動や発言・様子等できるだけ詳しく記録に残すように心掛けているが、十分記録に残せていない日もある。また気づきを含め申し送りを行い、よりよい介護につなげるよう心掛けている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりに合わせて病院受診をしたり、買い物へ行ったり、親戚の家に行ったり、散髪に来てもらったり、できるだけニーズに対応できるよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の防災訓練や行事等に参加している。また、ボランティアに来て頂き楽しく過ごすことができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>往診で対応していただける医師が主治医となり医療を提供 してもらっている。毎日の様子をファックスで報告し、緊急の 場合は電話連絡するようにしている。母体病院とのつながり もあり、健康面では、本人・家族とも安心して生活して頂いて いると思われる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>入居時に、ご家族の希望をお聞きしており、ほとんどの利用 者が「往診してくれる協力医に診てもらいたい」と希望されて いる。歯科、整形外科等の受診には、職員が同行されてい る。ご家族が通院介助される場合は、ご家族に事業所での ご本人の状態や様子を伝え、受診結果を教えていただくよ うにされている。母体病院の看護師、医師は24時間相談で き、対応してもらえるようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護師に週1回来て頂いている。体調変化や気づきを伝え て相談し、早急に対応して頂いている。電話でも24時間対 応していただき、アドバイスをを受けたり、主治医への連絡をし ていただいたりしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>母体が病院のため関係作りは行っている。入院した際にも お見舞いや医療連携の看護師を通じて情報交換ができて いる。 母体病院以外の場合、書面や家族から情報を入手してい る。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体が病院のため関係作りは行っている。入院した際にも お見舞いや医療連携の看護師を通じて情報交換ができて いる。 母体病院以外の場合、書面や家族から情報を入手してい る。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>契約の時点でホームでできることは説明している。入居時、 希望は伺っているが漠然とした回答が多く、状態の変化が みられた時に具体的な話し合いをすることがほとんどであ る。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約の時点でホームでできることは説明している。入居時、 希望は伺っているが漠然とした回答が多く、状態の変化が みられた時に具体的な話し合いをすることがほとんどであ る。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族には入居時に「常時、医療行為が必要になった場合 には事業所での支援が難しい」ことを伝えておられる。「母 体が病院なので、安心」と言われるご家族も多いが「その時 になってみないとわからない」と言われるご家族も多くあり、 現在は、ご本人の状態変化時等にご家族と、今後のこと について相談するようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  消防署での救命講習を受けたり、附帯施設での勉強会を通し定期的に研修を受けることができています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  運営推進会議を兼ね地域の方や消防署の方にも来て頂いて夜間を想定した避難訓練を行い、火災や自然災害について助言いただいた。その後、スタッフ会で職員全員で再確認している。  (外部評価)  運営推進会議時に、夜間時の火災発生を想定した訓練を実施された。メンバーの方達に訓練の様子を見ていただき、アドバイスをいただいた。又、職員のみで行った避難訓練時には、研修に参加した職員が、災害時の搬送方法について、実際に布団を使って他の職員に教えられた。地域の防災訓練には職員が参加されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  十分でないかもしれないが一人ひとりの人格を大切に言葉かけをするようにしている。  (外部評価)  管理者は、利用者に対する言葉遣いに気を付けるよう指導されている。職員は、利用者に「笑顔で接する」ことを心がけておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  入居者の思いを聞き、なるべく叶えられるよう支援している。自己決定のできにくい人には選択式の疑問形で声掛けをしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人のペースに合わせた生活ができるように心掛けている。食事の時間をずらしたり、寝不足の時には休むよう進めてみたり本人の立場にたって一緒に考えている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分でおしゃれができる人には気づいて声掛けを行ったり、できない人には手伝ったりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 誕生日等には好きなメニューを聞いたり、季節に合った食物を摂ってもらうようにしている。できる範囲で個々の力に合った手伝いをしている。	
			(外部評価) 職員は、利用者と一緒に食事しながら「ですよ」とメニューの詳細を伝え、食事介助をされていた。最後に残った箸でつかみにくいようなものは、職員がスプーンに乗せて、ご自分で口に運べるように支援されていた。昼食時、おせち料理で食べたいものを利用者に聞いておられ、利用者からは「かずのこが好きなんよ」「お刺身が好き」という声が聞かれた。食後、席でおしゃべりしながら利用者も職員もゆっくりされていた。その後、エプロンを付けて食器を洗ったり、お盆ふきをされている利用者がおられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスの取れた食事を摂っていただくようにメニューを工夫している。個々にあった量や形態にし食事量も記入している。食事の摂れない時には変わりのもので摂るようにしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必ず食後の口腔ケアは行っている。出来ない方には介助している。拒否の強い人は少し時間をおいて再度ケアするようにしている。出来る人も時には義歯の汚れを確認し介助したり見守りするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限り自立した方法を選択し、個々に合った対応をしている。 誘導の必要な方は排泄チェック表を活用し時間をみて誘導している。	
			(外部評価) 職員は、利用者個々の排泄パターンを記録等で把握し、時間を見て声かけされている。夜間は居室でポータブルを置いて、ご自分で使用される方もいる。調査訪問時「トイレに行ってみる」と声かけされ、職員とトイレに行かれる利用者の様子が見られた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取をすすめたり、レクリエーションの中で運動を取り入れたりしているが、まだまだ便秘薬に頼り気味である。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後の時間を活用して入浴してもらっている。希望される方は1日おきに嫌がられる方は4日に1回のペースで入られている。入浴順など、多少希望は聞いているが十分に希望通りの入浴はできていない。	
			(外部評価) 一番風呂が好きな利用者が数名おられ、声かけ等に配慮して個々が気持ちよく入浴できるようにされている。職員がお風呂の声かけをされると、ご自分で着替え等を準備する利用者もいる。 利用者からは、毎日の入浴や夕方の入浴を希望する方もおられるが、利用者の機能低下等により、個々の希望に応じることが難しい現状にある。利用者の状態や職員の人員のこともあるだろうが、個々が入浴をさらに楽しめるような工夫を探り、支援していかれてほしい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 好きな時間に休んでいただくようにしている。日中でも眠気があれば部屋に誘導している。室温や音等、ゆっくり休めるように配慮している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明は一通り目を通してしている。変更があれば業務日誌に記入しスタッフ全員で確認し変化の把握に努めている。 また、特に重要な薬は事前にスタッフ全員で確認するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割・楽しみを持って生活できるよう仕事を分担したり、好きな花と関わる機会をもうけたりと支援はしているが、徐々に入居者の重度化がみられ、思うように一人一人の支援に至らなくなってきている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換に買物や散歩に行ったりしているが、一人ひとりのその日の希望によって出かけることはなかなか出来ていない。親戚のお見舞いや散髪、外食等家族の協力で外出されている方はいる。	
			(外部評価) 月1回、外出を計画して出かけておられ、紅葉を見に出かけられたり「お寿司が食べたい」と希望される利用者があり、外食等を楽しまれた。利用者の体への負担も考慮して、移動時間は30分以内での場所を探すようにされている。	現在、利用者の身体機能の低下に伴い、個別での外出の機会は少なくなっているようだ。利用者やご家族の希望等も聞き取りながら、協力者を募る等、利用者が日々の散歩や買い物等、日常的に外に出ることができるよう、支援に努めていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自ら管理できる方には、持ってもらって外出時に使ってもらっている。糖尿病で自由に買物をされては困る方やお金の管理の難しい方は家族と相談し、買いたいものはホームで立て替えている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話の介助を行うし、手紙を書けるよう便箋・封筒を用意している。ご家族の声で安心される方などは、ホームよりかけて話して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>季節の花を生けたり、季節感のある作品やカレンダーを作成し壁等に貼っている。温度調整や光の調整、また定期的な換気を行い快適に過ごせるよう心掛けている。キッチンでは食事を作る音や匂いで食欲を刺激したり生活感を出している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>クリスマスツリーを飾っておられたり、近隣の中学生が届けてくれたクリスマスカードを貼っておられた。ご自分の部屋の場所が分かりにくい方には、扉の側に似顔絵を貼って目印にされていた。調査訪問時、利用者はテレビの前のソファに座って過ごされたり、テーブルで、塗り絵をされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>廊下やリビングに長いすを置いたり、テレビ前にソファを置き、思い思いに過ごせるようにしている。テーブル席では気の合う入居者の席を近くにして話をしながら塗り絵やランプができるよう気を配っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人が使い慣れたものを持ち込んでいただきタンスやテレビなど本人が使いやすいよう配置している。病院退院後に入居の方も多く、新しく買って来られる家族もいるため、家族の写真や自身の作品を飾って落ち着いて過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>テレビのチャンネル操作がご自分で出来るよう、職員が、リモコンボタンに操作方法をご本人に分かるように示しておられた。「夕涼み会」に来られた子ども達と一緒に撮った写真やご自身で色塗りのカレンダーを貼っておられ方もいる。家族旅行の日程を貼って時々話題にされたり、以前の旅行の写真も貼っておられた。図書館から借りてこられた本をお好きな時に読む方もおられる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>建物内部はバリアフリーになっており段差はほとんどなく手すりもついている。似顔絵や飾りで居室がわかるようにし、トイレや浴室には大きく「便所」「風呂場」とわかりやすく案内している。車椅子で自由に動けるよう家具の配置を工夫しているが状況によりテラスの出口や裏口にカギをかけるなどして安全にも配慮している。</p>	